〈解答〉

1　1　イ
　　2　ア・エ（両解）
　　3　ウ
　　4　エ

配点　1　1、3は各2点、他は各3点　10点満点

〈解説〉

1

1　「花束」「海水」は上の字が下の字を修飾する熟語である。他の選択肢についても見てみると、「虚実」は反対の意味の字を重ねたもの、「単純」は似た意味の字を重ねたもの、「開講」は下の字が上の字の目的語になっている熟語である。

2　傍線部の2行前にある「『あの……、藤原俊造さんですか』」などから判断する。ここから知らない少女がなぜ自分に話しかけてきたのか、また、自分の名前を知っているのか、その理由を老人が理解していない様子を読み取ることができる。イは「奇妙な姿」、オは「自分の好きなほおずきを持ってきたことに喜ぶ」がそれぞれ間違いである。加えて、傍線部の時点で少女が自宅にきた目的を老人は知らないので、ウの「お礼を言いに来たことに驚く」はおかしいことがわかる。

3　直前の11～13行目に「頭を下げたとたん、唐突に冷たい涙が滝のように夏代の頬を流れ落ちた。びっくりしたのと恥ずかしいのが一緒くたになって、夏代の身体の内側を駆けまわった」とあるので、これを参考にウを選ぶ。

4　エは22行目「心も軽くなったような気がした」から人の優しさにふれたことで，イライラする気持ちがなくなり、本来の自分に戻るきっかけをつかんだ様子が読み取れる。アは「優しさや思いやりを大切にしようと決心した」、イは「夏代のやりきれない様子」が文中からは読み取れない。また、ウは「心臓がばくんばくんと音を立てた」のは「気持ちが高ぶった」からではなく、「坂道を駆け上った」からだとも考えられる。